

平成26年度 第1回昭島市障害者自立支援推進協議会

議 事 要 旨

1 開催日時

平成26年7月31日(木) 午後6時30分～午後8時20分

2 開催場所

昭島市役所3階庁議室

3 出席者(協議会委員10名)

(委員)

長瀬委員(会長)、島田委員(副会長)、菅原委員、長谷川委員、石塚委員、石井委員、山本委員、渡辺委員、深井委員、野島委員

(欠席)

竹口委員、相沢委員

(昭島市地域支援会議委員)

東條地域支援会議委員

(事務局)

佐藤保健福祉部長、榎本障害福祉課長、山崎障害福祉課障害福祉係長、岩田障害福祉課主事

4 議事次第

1 開 会

2 議 題

(1) 昭島市地域支援会議活動報告について

(2) 第3期昭島市障害福祉計画の見込みと実績について

(3) 第4期昭島市障害福祉計画策定のための基礎調査の報告について

(4) 第4期昭島市障害福祉計画について

3 閉 会

5 説明資料

資料1 平成25年度昭島市地域支援会議活動報告

資料2 第3期昭島市障害福祉計画における自立支援給付事業量見込と実績

資料3 第4期昭島市障害福祉計画策定のための基礎調査の結果について

資料4 第4期昭島市障害福祉計画の策定について

1 開会（省略）

2 議題（要旨）

（1）昭島市地域支援会議活動報告について

東條地域支援会議委員長から活動内容について資料1に基づき説明

- 長瀬会長** 働くことのできる障害者が少なくなっているのは、就職することができるスキルを持った人は、既に就職してしまったことが要因か。
- 東條地域支援会議委員** はい。企業に見合ったスキルを持った方は就職できている傾向にありますが、企業が就労に必要なスキルのハードルを下げない限り、障害のある方が企業に見合ったスキルを身につけることが必要となっている。
- 島田副会長** 障害者の雇用については、企業側も努力してほしいし、また、公共機関も手を広げて支援してほしいと思う。
- 野島委員** 外資系企業で社会貢献のために障害者を募集しているケースがありますが、障害者に合った仕事ではなく、企業側が用意した仕事ができる人という基準で選んでおり、試されているという印象を受けている。障害者をふるいにかけるような雇用の仕方はどうかなと思う。
- 島田副会長** 企業にとっても、必要としている最低限の就労スキルはあると思うが、学校等が会社のニーズを把握して、障害者と雇用先をマッチングする必要があると思う。また、小学校、中学校からの就労スキルを上げる継続的なキャリア教育の必要があると思う。
- 東條地域支援会議委員** 企業の中には愛の手帳3度以下の重度の方だけを対象に雇用する特例子会社もある。また、最低賃金が上がってくるとそれに見合う労働力も必要となっており、企業、障害者の双方が努力していくことが必要だと感じている。

（2）第3期昭島市障害福祉計画の見込みと実績について

事務局より資料2に基づき説明

- 長瀬会長** 就労移行支援の実績値が減少していますが、何か考えられる要因はあるのか。
- 事務局** 就労移行支援と比較し就労継続支援がニーズが高く、利用者が増加しているという点が少し影響していると思う。
- 渡辺委員** それぞれの実績値の増減について、増減要因や背景等の分析は行っているのか。
- 事務局** 現状では、要因等の詳細については把握しきれていないが、今後、次期計画を作成していく上で、分析・把握をしていく予定。
- 渡辺委員** その背景にはサービスを使いづらいとか使いたいサービスが近隣にないなど、いろいろな要素があると思うので、それを踏まえた計画づくりをお願いしたと思う。
- 事務局** 社会資源の整備ということについてつながってくる部分でもあると思うが、今後分析を行うなかで、数値を立てていく必要があると認識している。

(3) 第4期昭島市障害福祉計画策定のための基礎調査の報告について

事務局より資料3に基づき説明

- 石塚委員** 知的障害者のグループホームについては、建物の確保が非常に難しく、また、改修するにしても相当な経費がかかるとともに、世話人など人材の確保も難しく、グループホームの運営にはハードとソフトの両面の課題があると思う。
- また、障害基礎年金は20歳で受給することができるが、実際それだけでは生活が厳しく、年金と一般就労の賃金である程度生活できている状況にある。知的障害者がグループホームに移行するに当たって、市の対策としてどのような経済的サポートをしていくかということもあり、東京都に対する補助の働きかけも重要だと思う。
- 事務局** 障害者が地域社会で共生していくためには、グループホームの整備は重要な課題と認識しています。現行の補助制度等の充実に向けた要請が必要と考えている。
- 石塚委員** 就労について、知的障害者は作業の指示がなかなか理解できず、離職してしまうケースがある。このような障害者を補助するため、ジョブコーチなどの制度を活用していくべきだと思う。また、1年や2年働いても昇給も昇進もないので、障害者が働くモチベーションが上がらないという点もあり、障害者の就労とスキルアップして昇進していくような仕組みづくりがないと、なかなか継続につながらないと思う。
- 事務局** 市でもジョブコーチの制度は構築されつつあり、また、就労支援事業も実施しているが、今後さらに充実させていく必要があると考えている。
- 山本委員** 子どもの放課後の課題がはっきりしていない感じがする。放課後等デイサービスもいろいろとあるが、自分の子どもに合った放課後等デイサービスが少ないなどの現状もあるので、このような点も踏まえていただければと思う。
- 事務局** 障害福祉計画でも児童の発達支援については盛り込んでいきますが、子ども家庭部で進めている児童発達支援計画においても、児童に対する仕組みづくりの検討を進めている。
- 島田副会長** 成年後見制度の認知度が思ったより低いので、情報提供をどのようにしていくのかという課題があると思う。
- 事務局** 今後も継続して周知、啓発につとめていく必要があると考えている。
- 島田副会長** 「障害によってあきらめたこと」の結果で「スポーツ・レクリエーション」があるが、障害者サークルだけでなく、一般サークルへの受け入れ態勢があってもいいのではないかと思う。一般サークルで活動することによって仲間関係ができて、自然な形で支え合いが生まれるのではないかと思う。
- 事務局** 現状ではスポーツ・レクリエーション関連での仕組みは特にはないが、今後、社会教育部門と連携していく必要があると考えている。
- 渡辺委員** 障害者の災害時に対する不安が高くなっている点があるので、障害者の災害時対策とその啓発が必要だと感じた。また、相談支援について人材不足という現状はあるが、自分が携わる中でも充実していきたいと感じている。

- 事務局** 災害時の支援者対策は地域防災計画に基づいて仕組みを改善していきたいと考えている。相談支援については全国的な課題でもあるので、事業者の方々とも連携して仕組みづくりを進めていかなければならないと考えている。
- 石塚委員** 在宅で障害者を見ている家庭では保護者の疲弊があり、相談も多く受けている。これに対して短期入所が良い制度であり、ニーズが右肩上がりです。第4期計画でも短期入所については伸びていくと思うが、市の子ども家庭支援センターと障害部門が連携して支援していく必要があるかと思う。
- 事務局** 短期入所は非常に必要な部分と考えているが、社会資源が少ない状況となっている。少ない資源の中で、虐待や保護者の高齢化などの問題、給付基準、緊急性等を考慮して公平に提供する必要があると考えている。

(4) 第4期昭島市障害福祉計画について

- 事務局** 第4期昭島市障害福祉計画の策定に関し、昭島市障害者自立支援推進協議会に諮問されたので、報告する。
- 長瀬会長** (諮問内容の説明)
- 事務局** (資料4に基づき説明)
- 渡辺委員** PDCAサイクルとは、計画でうまくいっていない部分を修正したり、需要が大きい部分を増やしたりするようなことなのか。
- 事務局** 毎年、事業内容を検証し、変更する必要がある部分については見直していく形になるかと思うが、庁内委員会で検証する仕組みづくりを行っている。
- 島田副会長** 資料4-1の①②は施設からの地域生活移行、③④はそれを行うための受け皿かと思うが、この2つをどのように連動させていくのが重要だと思う。就労が厳しい方への日中生活を保障するプラン等はあるか。
- 事務局** 新規の地域生活支援拠点等の整備については、グループホームや地域活動支援センターの機能をコンパクトに配置した拠点を構築するイメージかと思うが、施設整備には財政の問題もあるので、今後の大きな課題かと思う。また、その拠点整備ができない場合は、既存施設を活用した面的な支援を図るべきと国の指針で示されているので、いずれにしても、受け皿の整備を図っていく必要があると考えている。
- 山本委員** 地域の中では行動障害の方への支援が重要だと思うが、支援方法の難しさや支援が進まず虐待に至ってしまうなどの現状がある。虐待の検証を行う中で、行動障害の方の支援についても研究が進んでいるので、このような動きが広がっていけばよいと思う。
- 事務局** 個別施策分野のその他の中で、計画相談や虐待防止についても重要な項目として指針に示されているので、第4期計画においても考えていきたいと考えている。
- 山本委員** 重度障害の方がグループホームに入れず、施設入所をたずねても受け入れてもらえないことが多く、非常に苦勞されている。
- 事務局** 施設入所されている方で地域にでることができない方も多く、また、出ることを望まない方も多くいる状況にある。相談支援や就労支援など様々な支援・サービスの中で、本人にあったサービスを提供できるように計画を立てて支援していくことが重要と考えている。

野島委員

大人の障害のことを考えると、子どもの頃にどのようなケアを受けてきたかが重要だと思う。

事務局

とぎれ目のない支援ということが障害者施策のコンセプトとなっているので、児童から大人に切り替わる繋ぎ目は重要な部分であり、十分に考慮していなければならないと認識している。

事務局

(資料4-2、4-3、4-4に基づき説明)

事務局

資料4-2以降の計画案については、次回以降に協議をお願いしたい。